

貯法	直射日光を避けて、 室温保存
使用期限	ボトル及び外箱に 最終年月表示

承認番号	22000AMX01502000
薬価収載	2008年6月
販売開始	2008年7月

外用消毒剤

イソジン®スクラブ液 7.5%

ISODINE® SCRUB SOLUTION 7.5%

ポビドンヨード液

シオノギ製薬



【組成・性状】

(1)組成

イソジンスクラブ液7.5%は、1 mL中に下記の成分を含有する。

有効成分	ポビドンヨード	75mg (有効ヨウ素として7.5mg)
添加物	pH調整剤、その他 2 成分	

(2)製剤の性状

イソジンスクラブ液7.5%は、発泡剤、界面活性剤を含有する黒褐色のわずかに粘性のある液剤で、弱いヨウ素臭がある。

※イソジンスクラブは、手術用イソジン液の販売名を変更した製剤である。

【効能・効果】

手指・皮膚の消毒、手術部位（手術野）の皮膚の消毒

【用法・用量】

(1)手指・皮膚の消毒

本剤の適量を用い、少量の水を加えて摩擦し、よく泡立たせたのち、流水で洗う。

(2)手術部位（手術野）の皮膚の消毒

本剤を塗布するか、または少量の水を加えて摩擦し、泡立たせたのち、滅菌ガーゼで拭う。

【使用上の注意】

(1)慎重投与（次の患者には慎重に使用すること）

- 1) 本剤又はヨウ素に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2) 甲状腺機能に異常のある患者〔血中ヨウ素の調節ができず甲状腺ホルモン関連物質に影響を与えるおそれがある。〕

(2)副作用

総症例2,386例中副作用発現は8例0.34%であり、その内容は接触皮膚炎4例、そう痒2例、発疹1例、発赤増強1例であった。（手術用イソジン液の再評価結果）

1) 重大な副作用

ショック、アナフィラキシー（呼吸困難、不快感、浮腫、潮紅、蕁麻疹等）（0.1%未満）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

2) その他の副作用

種類\頻度	0.1%未満
過敏症 ^{注)}	発疹等
皮膚	接触皮膚炎、そう痒感、灼熱感、皮膚潰瘍
甲状腺	血中甲状腺ホルモン値（T ₃ 、T ₄ 値等）の上昇あるいは低下などの甲状腺機能異常

注) 症状があらわれた場合には、使用を中止すること。

(3)妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊娠中及び授乳中の婦人には、長期にわたる広範囲の使用を避けること¹⁾。

(4)臨床検査結果に及ぼす影響

酸化反応を利用した潜血試験において、本剤が検体に混入すると偽陽性を示すことがある²⁾。

(5)適用上の注意

1) 使用部位

- ① 損傷・創傷皮膚及び粘膜には使用しないこと。
- ② 経口投与しないこと。

2) 使用時

- ① 眼に入らないように注意すること。入った場合には、水でよく洗い流すこと。
- ② 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。
- ③ 電気的な絶縁性をもっているため、電気メスを使用する場合には、本剤が対極板と皮膚の間に入らないよう注意すること。

(6)その他の注意

ポビドンヨード製剤を新生児に使用し、一過性の甲状腺機能低下を起こしたとの報告がある³⁾。

【臨床成績】

臨床効果の有効率は2,332例中2,265例97.1%を示し、その内容は手術部位（手術野）では2,177例中2,130例97.8%、術者手掌指では155例中135例87.1%であった。（手術用イソジン液の再評価結果）

*【薬効薬理】

(1)細菌等に対する効果 (in vitro)

1) 本剤の殺菌に要する最小時間は次のとおりであった⁴⁾。

被 験 菌	殺菌時間	
	希釈しない時	2倍に希釈した時
<i>Staphylococcus aureus</i> ATCC 6538P	30秒以内	30秒以内
<i>Staphylococcus aureus</i> R-No. 26	30 "	30 "
<i>Staphylococcus epidermidis</i> ATCC 12228	30 "	30 "
<i>Streptococcus pyogenes</i>	30 "	30 "
<i>Corynebacterium diphtheriae</i>	30 "	30 "
<i>Escherichia coli</i> NIHJ JC-2	30 "	30 "
<i>Salmonella paratyphi</i> A	30 "	30 "
<i>Salmonella paratyphi</i> B	30 "	30 "
<i>Shigella sonnei</i>	30 "	60 "
<i>Proteus vulgaris</i> OX-19	30 "	30 "
<i>Pseudomonas aeruginosa</i> IAM 1007	30 "	30 "
<i>Candida albicans</i>	30 "	30 "

*2) ポビドンヨード製剤（10%液剤）の臨床分離株に対する効果は次のとおりであった^{5~8)}。

被 験 菌	株数	ポビドンヨード製剤（10%液剤）の希釈倍率（PVP-I濃度）	作用時間	減菌率
<i>Staphylococcus aureus</i> (MSSA)	20	20倍 (0.5%)	30秒	99.99%以上
<i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA)	20	20倍 (0.5%)	30秒	99.99%以上
<i>Escherichia coli</i>	10	20倍 (0.5%)	30秒	99.99%以上

イソジン®スクラブ液 7.5%

被験菌	株数	ポビドンヨード製剤(10%液剤)の希釈倍率(PVP-I濃度)	作用時間	減菌率
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	20	20倍(0.5%)	30秒	99.99%以上
<i>Serratia marcescens</i>	20	20倍(0.5%)	30秒	99.99%以上
<i>Burkholderia cepacia</i>	10	20倍(0.5%)	30秒	99.99%以上
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	10	20倍(0.5%)	30秒	99.99%以上
<i>Mycobacterium avium</i>	2	100倍(0.1%)	30秒	99.9%以上
<i>Mycobacterium kansasii</i>	3	100倍(0.1%)	30秒	99.9%以上
<i>Mycobacterium tuberculosis</i>	7	100倍(0.1%)	30秒	99.99%以上
<i>Bordetella pertussis</i>	10	50倍(0.2%)	15秒	99.99%以上

* (2) ウイルスに対する効果 (in vitro)

ポビドンヨード製剤(10%液剤)のウイルスに対する効果は次のとおりであった^{9~14)}。

ウイルス	ポビドンヨード製剤(10%液剤)の希釈倍率(PVP-I濃度)	作用時間	ウイルス不活化率
単純ヘルペスウイルス	10倍(1.0%)	30秒	99.99%以上
アデノウイルス	10倍(1.0%)	30秒	99.9%以上
風疹ウイルス	10倍(1.0%)	60秒	99.99%以上
麻疹ウイルス	10倍(1.0%)	60秒	99.0%以上
ムンプスウイルス	10倍(1.0%)	60秒	99.99%以上
インフルエンザウイルス	10倍(1.0%)	30秒	99.99%以上
ロタウイルス(サル)	10倍(1.0%)	30秒	99.9%以上
ポリオウイルス	2倍(5.0%)	30秒	99.9%以上
HIV	20倍(0.05%)	30秒	99.9%以上
サイトメガロウイルス	10倍(1.0%)	30秒	99.9%以上
SARSウイルス	10倍(1.0%)	60秒	99.99%以上
鳥インフルエンザウイルス(高病原性)	5倍(2.0%)	10秒	99.99%以上
鳥インフルエンザウイルス(低病原性)	5倍(2.0%)	10秒	99.99%以上
豚インフルエンザウイルス	10倍(1.0%)	10秒	99.99%以上
カリシウイルス(ネコ、イヌ)	40倍(0.25%)	10秒	99.9%以上
マウスノロウイルス	50倍(0.2%)	15秒	99.99%以上

また、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、エンテロウイルスに対しても効果が認められた^{15, 16)}。

(3) 術者手指の消毒効果

本剤 5 mL を用い 55 例に約 5 分間ブラッシングを行い滅菌水で十分洗い落とし、次いで新しい本剤 5 mL で再び同様の処置を行った後、滅菌乾燥ガーゼで水分を拭き取った指を普通寒天平板培地に押し、24 時間培養を行ってコロニーの出現の有無を調べた。55 例中処置前のコロニー出現平均数約 40 個であったが処置後コロニーの出現をみたのは 1~3 個の白色ないし灰白色のコロニーの 7 例であり、それはいずれもグラム陽性の球菌であった。

(4) 手術野の消毒効果

本剤を十分浸したガーゼで手術部位の中心から周辺に向けて約 5 分間塗擦した。次いで滅菌水で洗い、滅菌ガーゼで拭き乾かし、その皮膚面から上記殺菌処置の前と後に細菌試験検体を取り、普通寒天平板培地で培養し、37℃ 24 時間後のコロニーの出現の有無を調べた。20 例中処置後のコロニーの出現

をみたのは 2~5 個の白色ないし灰白色のコロニーの 4 例であった。

【有効成分に関する理化学的知見】

性状：ポビドンヨードは暗赤褐色の粉末で、わずかに特異なおいがある。

本品は水又はエタノール(99.5)に溶けやすい。

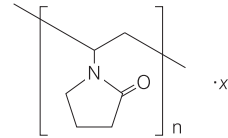
本品 1.0g を水 100mL に溶かした液の pH は 1.5~3.5 である。

一般名：ポビドンヨード Povidone-Iodine

化学名：Poly [1-(2-oxopyrrolidin-1-yl) ethylene] iodine

分子式：(C₆H₉NO)_n · xI

構造式：



【取扱い上の注意】

衣類に付いた場合は水で容易に洗い落とせる。また、チオ硫酸ナトリウム溶液で脱色できる。

【包装】

500mL

*【主要文献】

- 1) Danziger, Y., *et al.* : Arch.Dis.Child., 62 : 295, 1987
- 2) Bar-Or, D., *et al.* : Lancet, 2 (8246) : 589, 1981
- 3) 竹内 敏ほか：日本小児外科学会雑誌, 30 (4) : 749, 1994
- 4) イソジン製剤の殺菌力試験(社内資料)
- 5) 国定孝夫ほか：環境感染, 14 (2) : 142, 1999
- 6) 国定孝夫ほか：環境感染, 15 (2) : 156, 2000
- 7) Rikimaru, T., *et al.* : Dermatology, 195 (Suppl. 2) : 104, 1997
- * 8) Suzuki, T., *et al.* : J. Infect. Chemother., 18 (2) : 272, 2012
- 9) 川名林治ほか：臨床とウイルス, 26 (5) : 371, 1998
- 10) Kariwa, H., *et al.* : Dermatology, 212 (Suppl. 1) : 119, 2006
- 11) Ito, H., *et al.* : Dermatology, 212 (Suppl. 1) : 115, 2006
- * 12) 伊藤啓史ほか：日本化学療法学会雑誌, 57 (6) : 508, 2009
- 13) 遠矢幸伸ほか：日本化学療法学会雑誌, 54 (3) : 260, 2006
- * 14) Matsuhira, T., *et al.* : Exp. Anim., 61 (1) : 35, 2012
- 15) 栗村 敬ほか：Biomedica, 2 (12) : 1223, 1987
- 16) 野田伸司ほか：岐衛研所報, 24 : 15, 1979

**【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

塩野義製薬株式会社 医薬情報センター
〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目1番8号
電話 0120-956-734
FAX 06-6202-1541
<http://www.shionogi.co.jp/med/>

®:イソジン及びISODINEはムンディファーマの登録商標です。

製造販売元 **ムンディファーマ株式会社

〒108-6019 東京都港区港南2-15-1

発 売 **塩野義製薬株式会社

〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目1番8号